

2009年3月期
第2四半期累計期間

決算説明会

新日本無線株式会社



I . 2009年3月期 第2四半期連結累計期間 決算について

- **売上高が減少(前年同期間比 $\Delta 8.9\%$)**

半導体

マイクロ波デバイス及び光半導体デバイス堅調
オペアンプ、電源用IC、受託生産等の売上減少

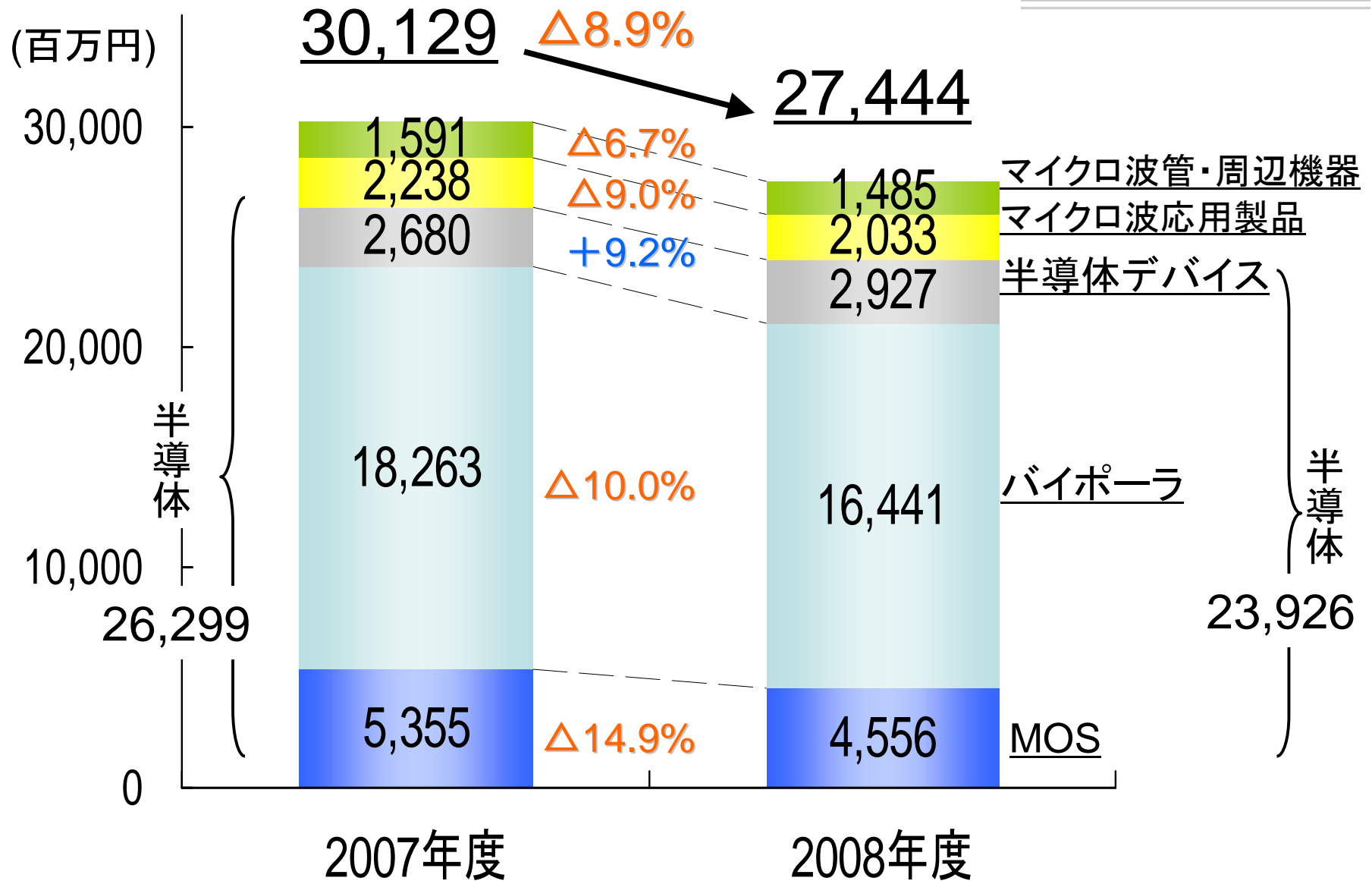
マイクロ波関係

マイクロ波管・周辺機器は、官需・民需とも売上減少
マイクロ波応用製品は、衛星通信用・地上通信用売上減少

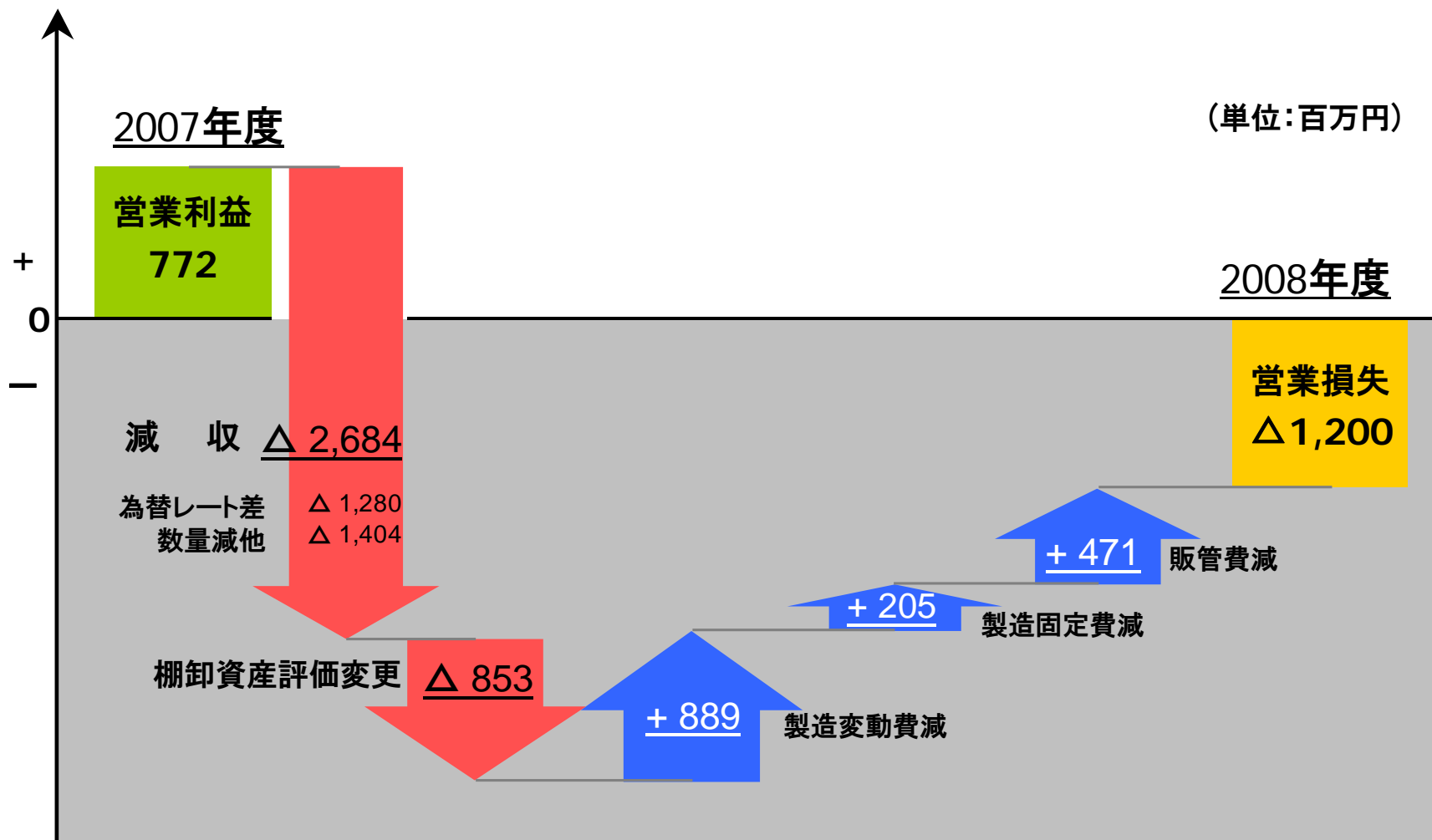
- **会計基準の変更に伴う減益($\Delta 853$ 百万円)**

「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用に伴うもの

連結売上高の推移(第2四半期累計)



営業利益(連結)の分析(第2四半期累計)



連結損益の推移(第2四半期累計)

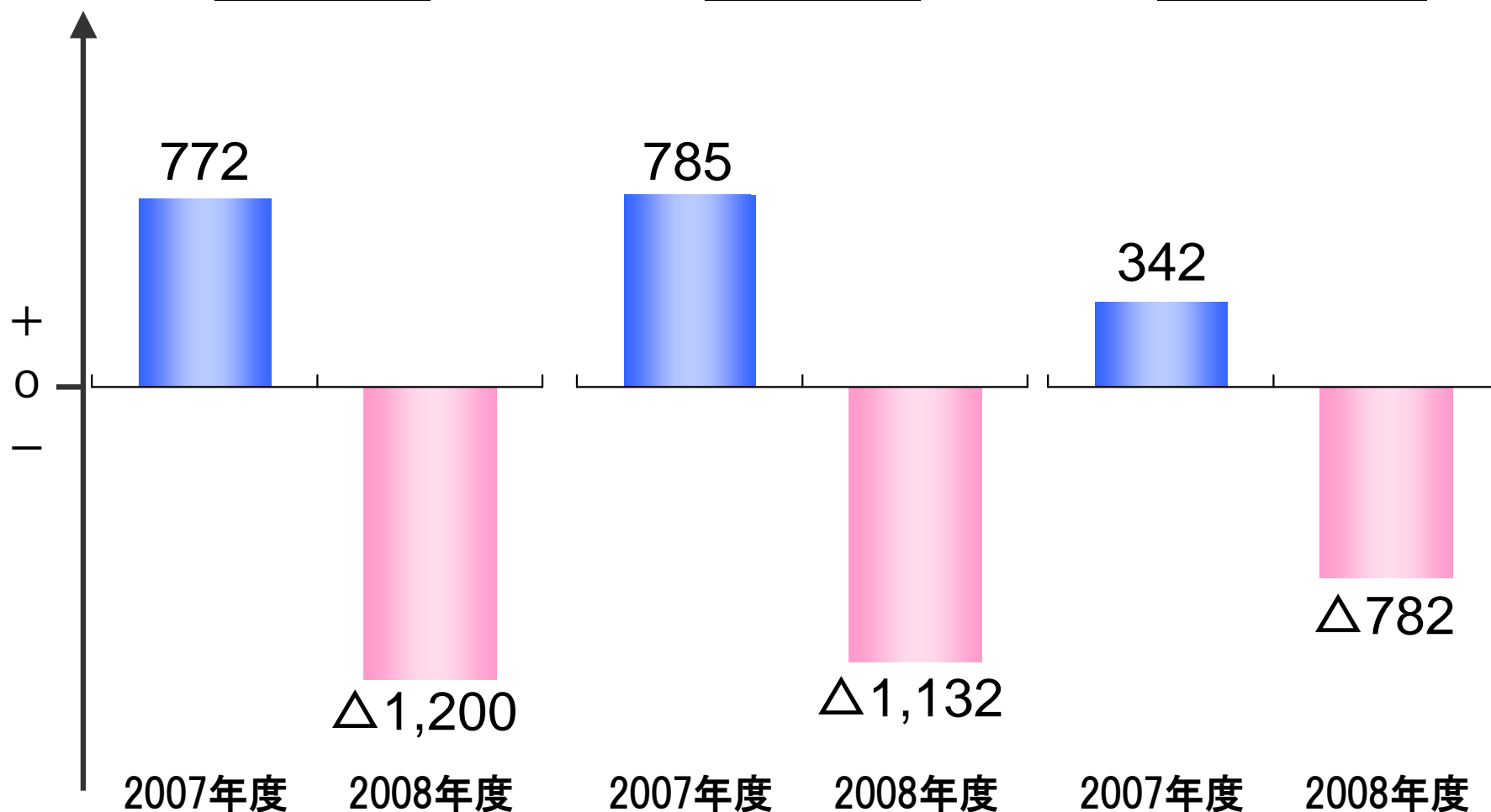



(百万円)

営業損益

経常損益

当期純損益



A decorative horizontal bar is positioned below the JRC logo. It features a thick grey line on the left, a thin black line on the right, and several thin white lines below the black line, creating a stylized graphic element.

Ⅱ . 2009年3月期 通期計画について

・売上高が減少の見込(前年度比 $\Delta 9.8\%$)

半導体

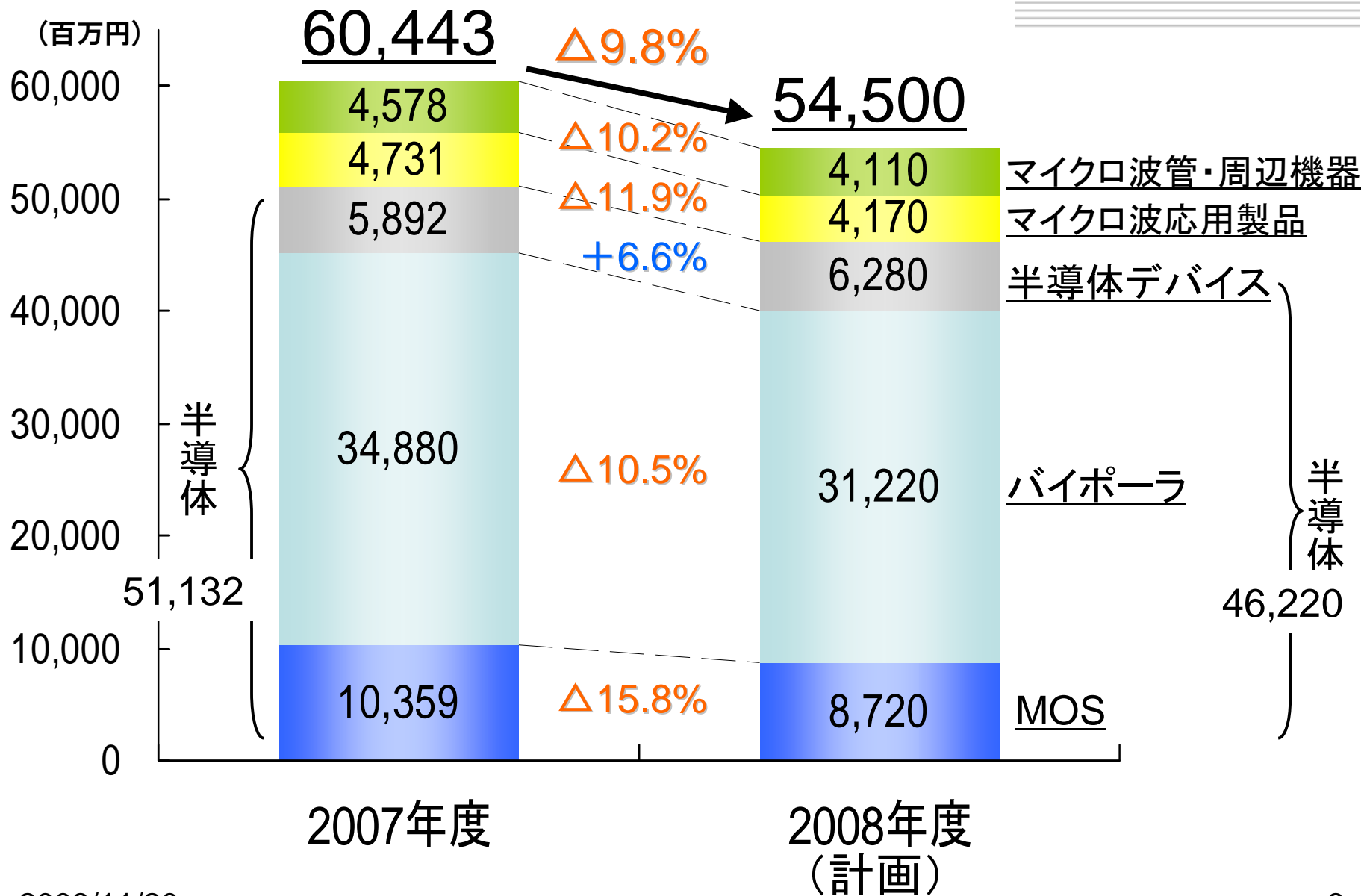
マイクロ波デバイス及び光半導体デバイス売上増加
オペアンプ、電源用IC、モータ用IC、DSP売上減少

マイクロ波関係

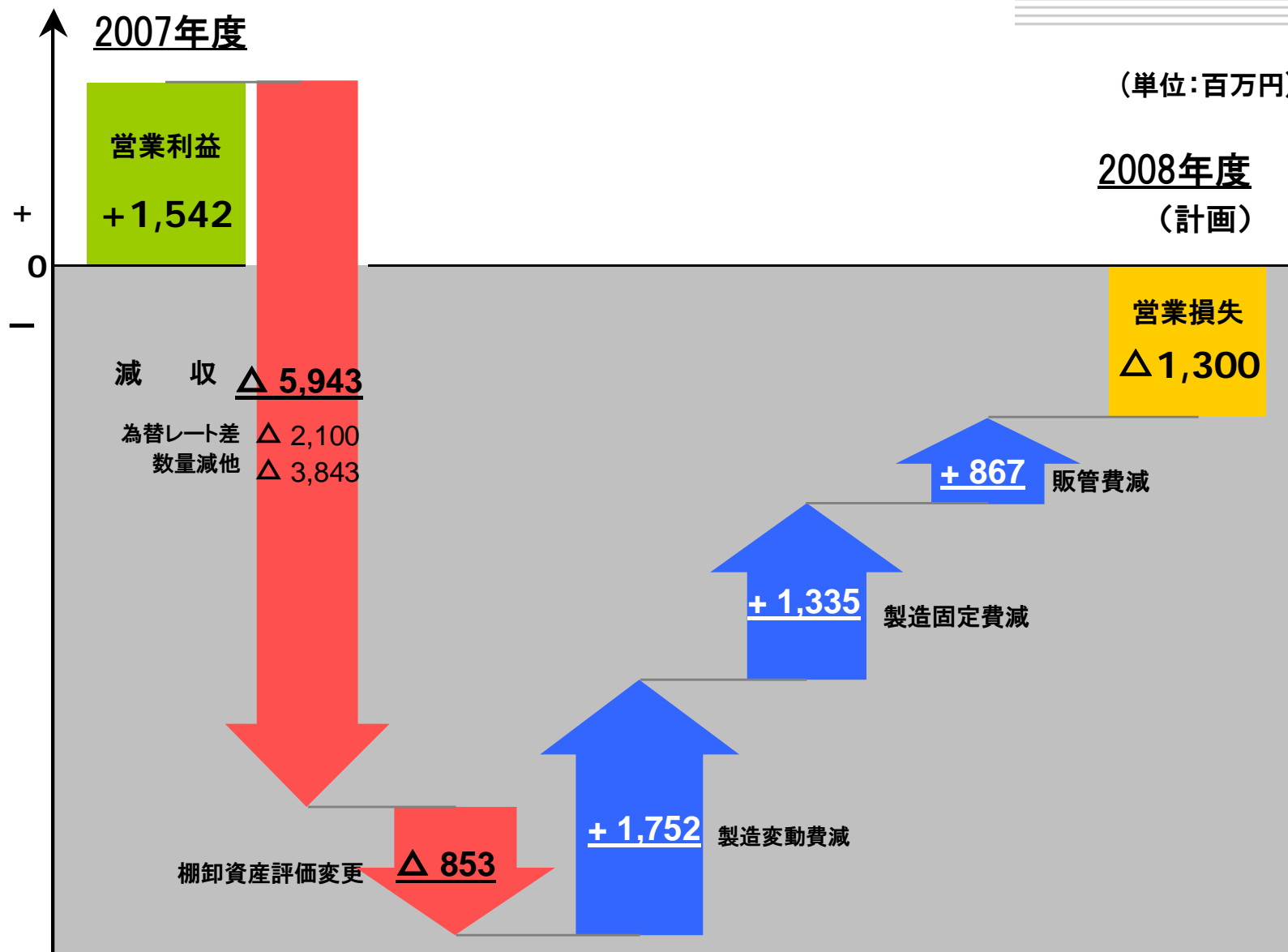
マイクロ波管・周辺機器は、官需電子管の売上減少
マイクロ波応用製品は、衛星通信用コンポーネント製品の
売上減少

・下期計画の為替レート ¥100=US\$1

連結売上計画(通期)



営業利益(連結)計画の分析(通期)



連結損益計画(通期)

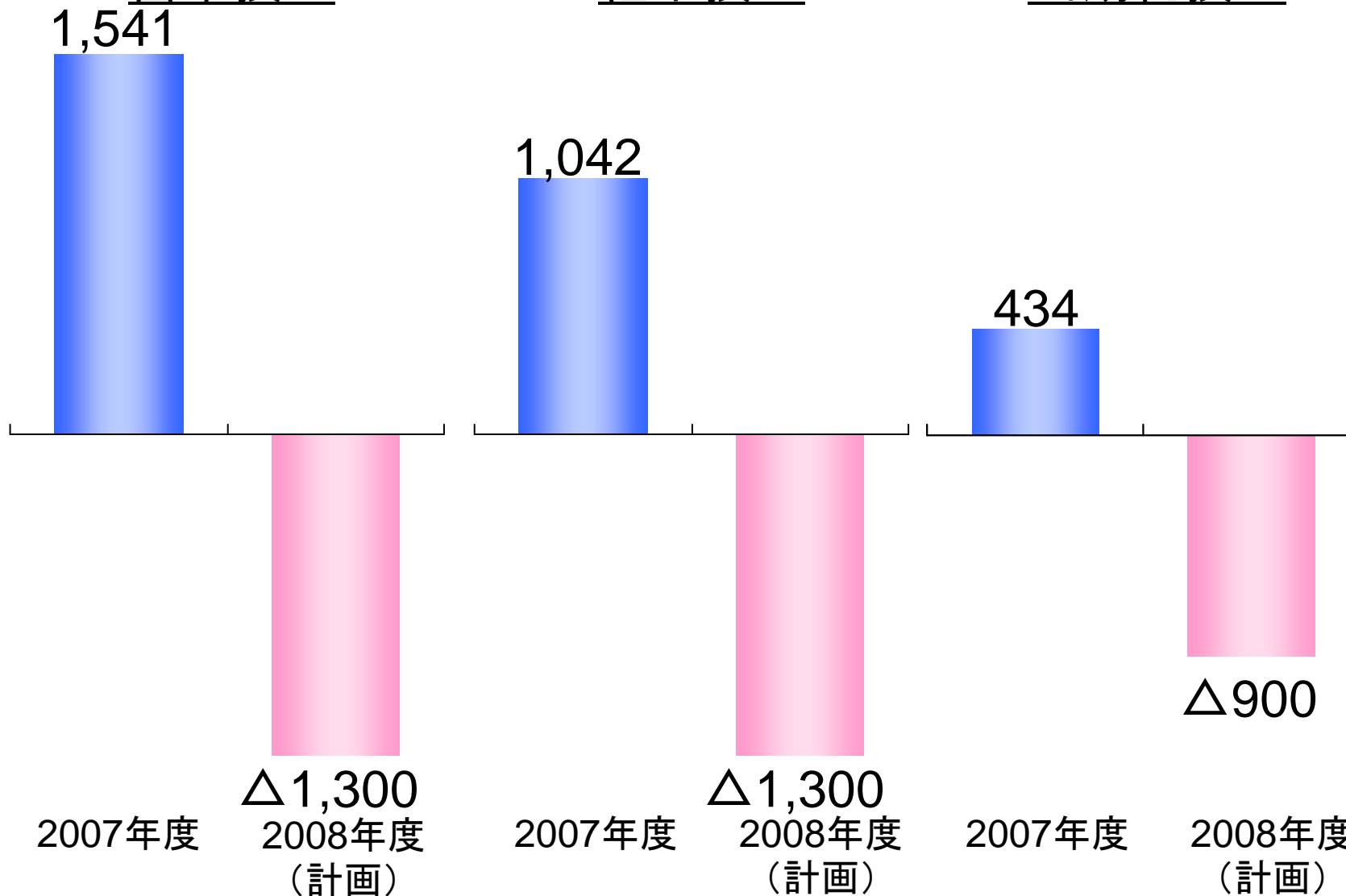


(百万円)

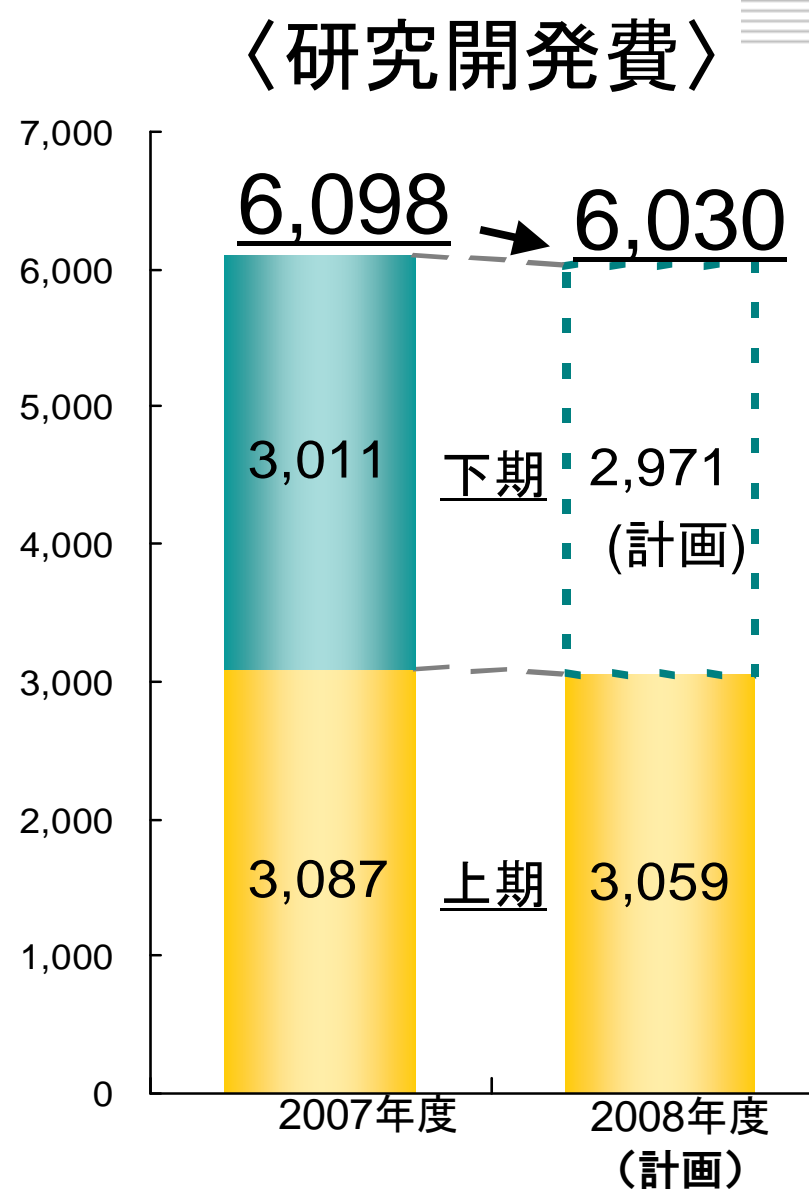
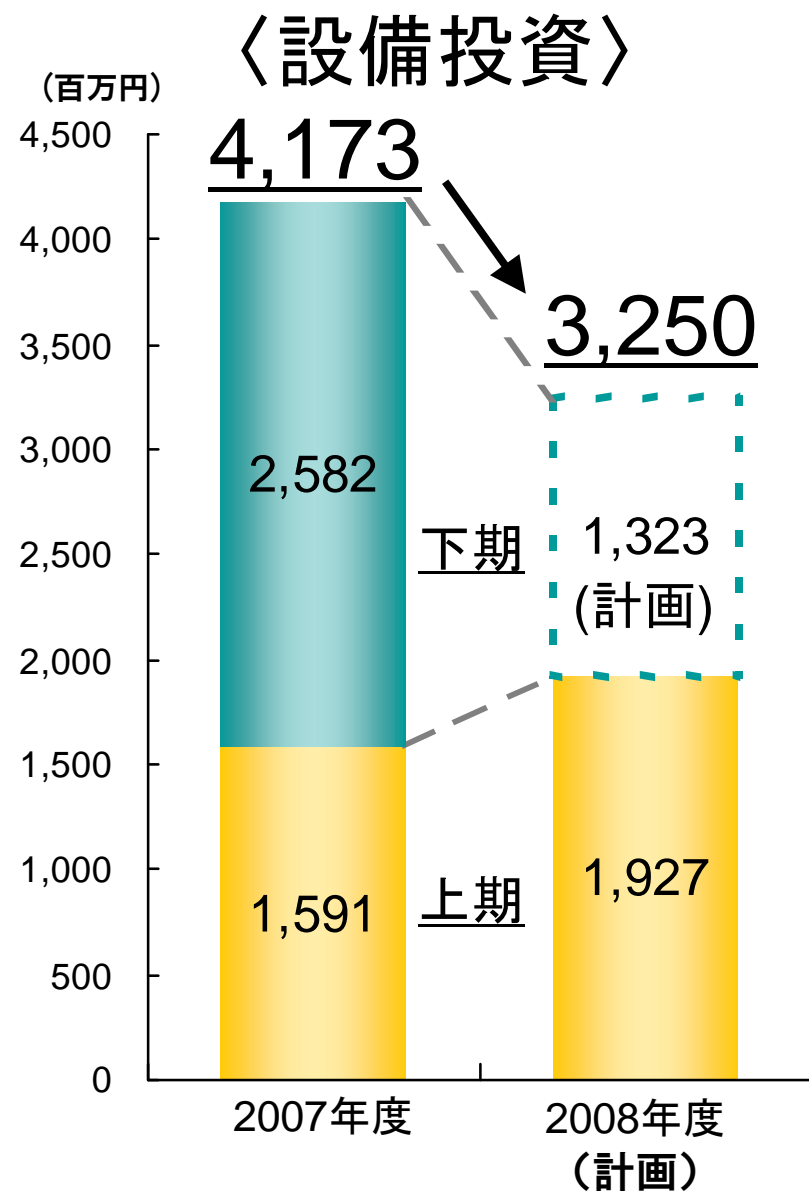
営業損益

経常損益

当期純損益



連結設備投資・研究開発費(通期)

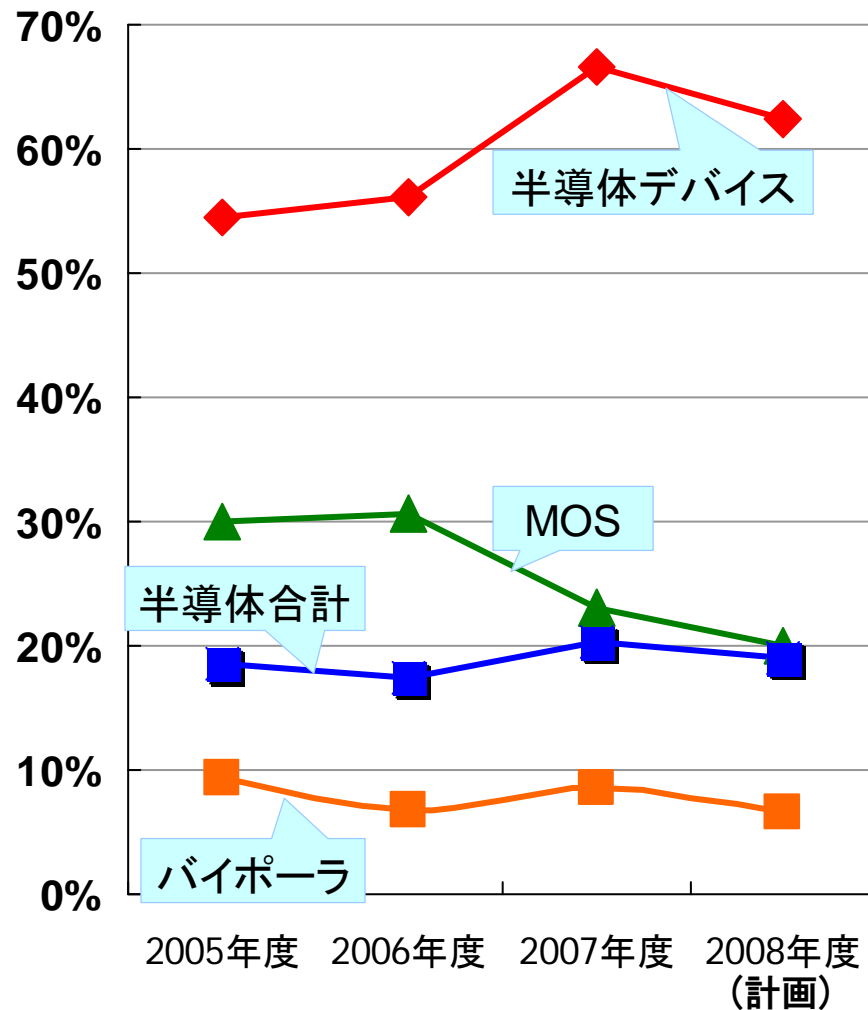


半導体 新製品・販売分野別の状況



<個別>

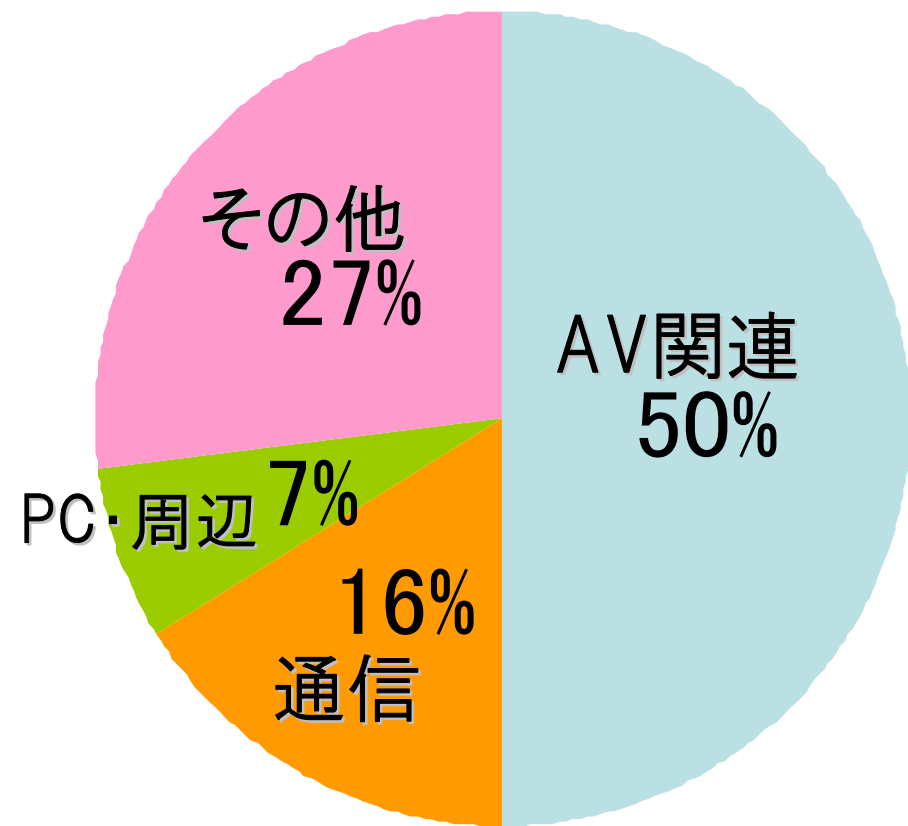
新製品販売比率



<個別>

販売分野別状況

(2008年4月-9月累計)



A decorative horizontal bar is positioned below the JRC logo. It features a thick grey line on the left, a black line on the right, and several thin white lines underneath the black section.

Ⅲ. 当面の課題と 対応について

● 販売力の強化

└ 特別販売戦略チーム活動

製品別活動

- ・組織横断的な営業体制の構築
- ・電源用ICを中心とした集中的拡販活動

地域別活動

- ・中国地域拡販活動
NJR上海直販開始
技術支援の強化

オペアンプ

高性能(高精度・高速)オペアンプの開発

電源用IC

パワーマネジメント

- ・ 高耐圧、大電流製品の開発
- ・ MCP(Multi-chip Package)による高精度システム電源用ICの開発

(子会社 佐賀エレクトロニクス(株)による短TAT)

GaAs MMIC

低歪、低雑音、高ESD耐性という強みを活かしたアプリケーションの拡大

重点開発・拡販製品



オペアンプの拡販方策

1. 車載用

高信頼度製品の拡大

2. 産業機器用

高精度・高安定オペアンプ

3. PKGの超小型化

〈従来品〉 TVSP-8 /10
2.9 x 4.0 mm
t=1.0 mm(max)

超小型PKG



ESON-8
2.3X2.3mm
t=0.4 mm



ESON-8
2.0X2.0mm
t=0.4 mm

実装面積 (従来品比)
50%以下実現!

操舵系
SAS/EPS/トルクセンサ

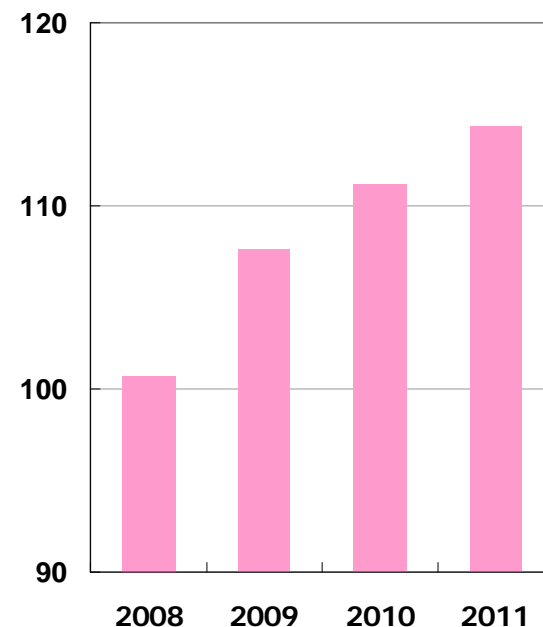
ライト周辺
HIDレベライザ
HIDインバータ

吸気/排気系
EFI・O₂センサ
ECUエアフロセンサ

車室内
パワーウィンドウ
インパネ

HEV
バッテリー電圧監視
バイアス電源生成

(億円) <オペアンプ販売計画>



GaAs MMICの拡販方策

国内携帯ビジネスに集中
国内主カメーカに成長

<現状>

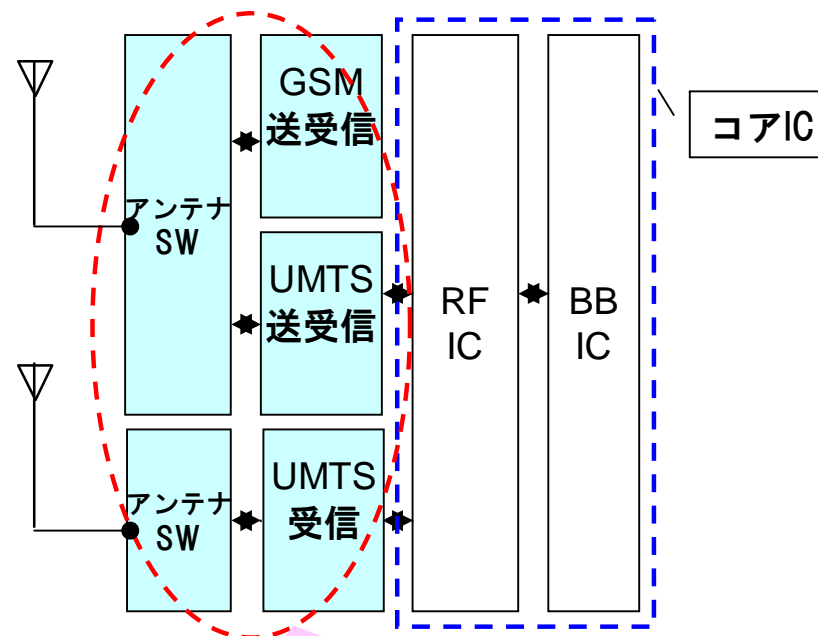
海外ビジネス展開
各種リファレンス
デザインに採用

<今後>

海外ビジネスでの販売増
データ通信向け中心の
リファレンスデザインでの採用を
背景に大きな成長を期待

3年後販売金額
70~100億円！

<データ通信カード用コアICメーカーの
リファレンスデザイン例>



これらのブロック部分に当社
GaAs MMIC (SW、LNA) 採用

IV. 成長に向けた 中長期的な研究開発活動

新デバイスの研究開発



微弱無線トランシーバIC（300MHz帯）

・応用分野

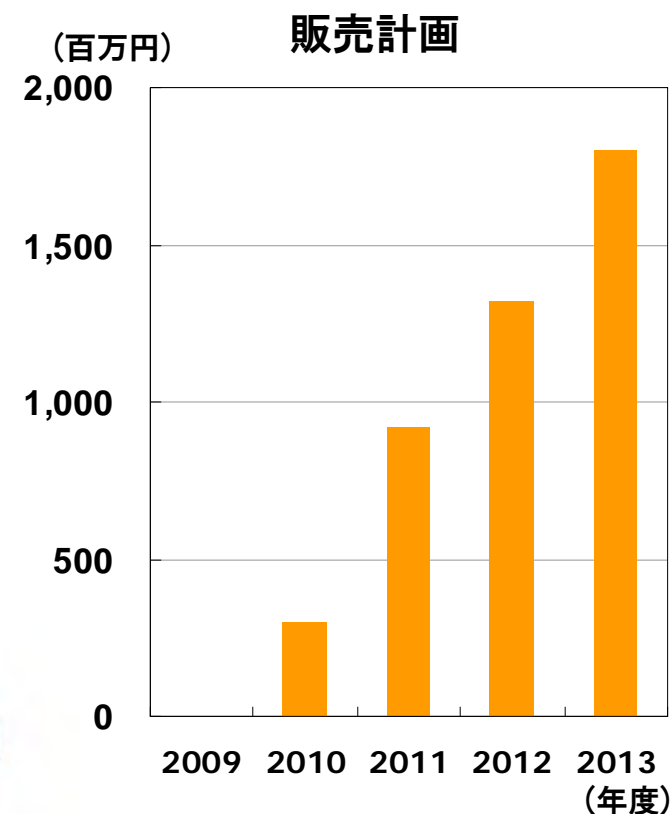
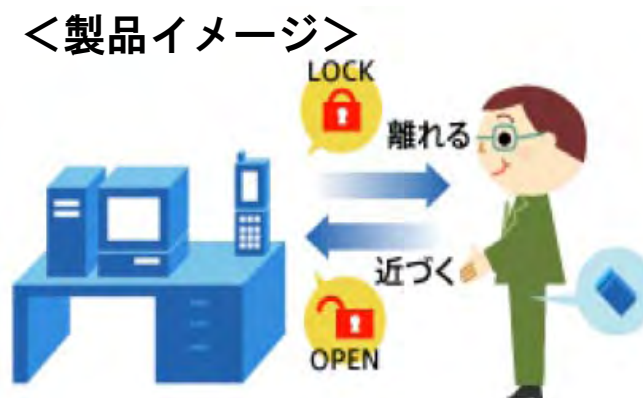
携帯電話やパソコンの盗難・紛失や不正使用を防御

・開発体制

大手モジュールメーカーとの共同研究開発（無線性能、システム性能の相互検証）

・開発目標

2009年
サンプル出荷
2010年
量産開始



デジタル電源制御IC

- デジタル電源のメリット

- 高速スイッチング制御
- 回路の簡素化
- 電圧と電流の同時制御
- 高速通信機能付加 等

- 開発状況

- 08年度 基礎開発
- 09年度 量産立上げ

- 販売計画

(年度)	2009	2010	2011	2012
当社販売見込	0	300	3,000	4,000

デジタル電源制御ICの
市場規模予測

2007年度 2010年度

140 → 400
百万US\$ 百万US\$

<単位：百万円>

新デバイスの研究開発



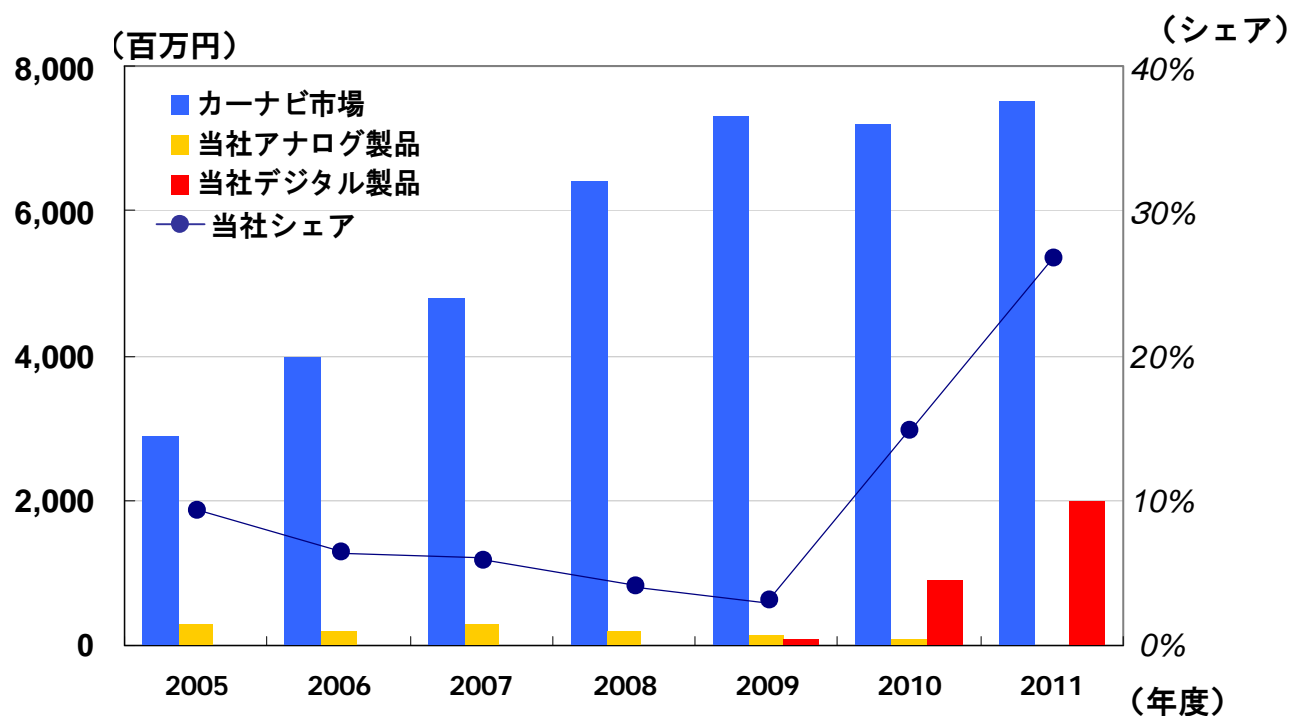
デジタルビデオデコーダ

デジタル化対応検討開始

(アナログとデジタルの設計技術の融合)

応用分野: 主にカーナビゲーション機器向け

開発目標: 2009年 サンプル出荷 2010年 量産開始



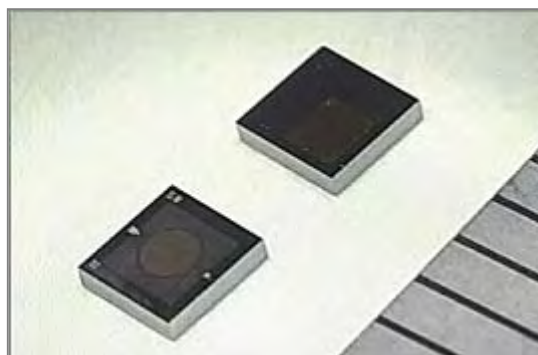
新デバイスの研究開発



MEMS (Micro Electro Mechanical Systems)

開発中の デバイス	電子スイッチ	Siマイクロフォン
	誤動作のないスイッチ	より高性能を目指した マイクロフォン
応用分野	ビデオカメラ・デジカメ・ ゲーム機等	携帯電話機・パソコン・ ICレコーダ等
製品開発予定	2010年度	2011年度

<試作品(MEMSマイク)>



新デバイスの研究開発



デジタルマイク

マイクの小型化と性能アップ

FET
リニアリティ・ノイズ特性

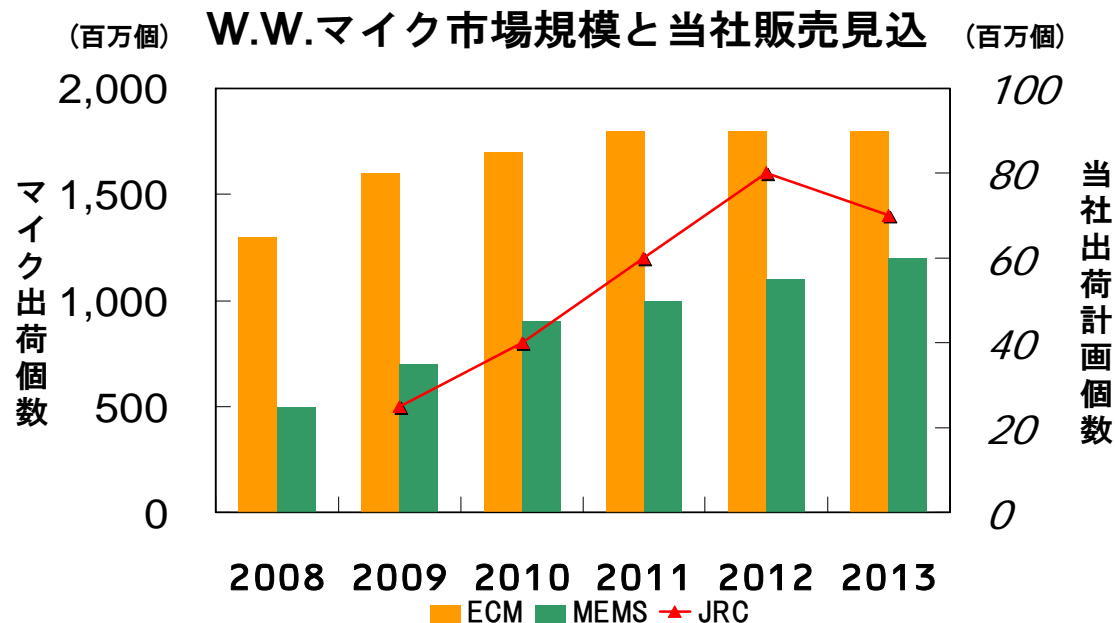
CMOS (1chip)
ゲイン設定簡易化

MEMS (1chip)
ノイズ特性最適化のため、
ECとのマッチングが不要

要素技術開発

1bit Δシグマ技術
音響評価技術

MEMS-IC



ワイドバンドギャップ半導体デバイスの開発

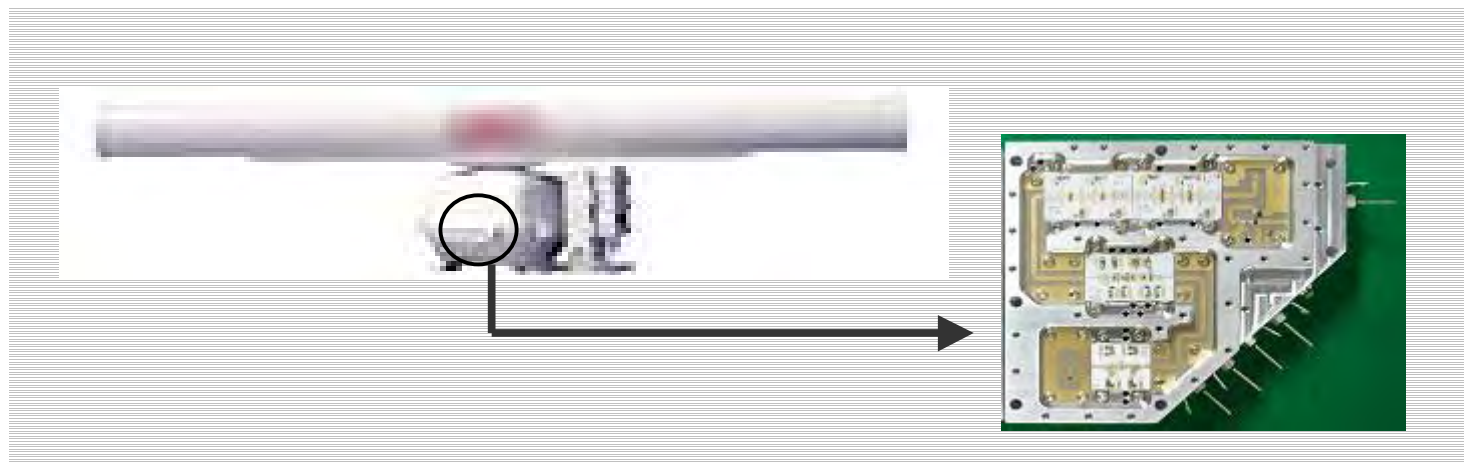
SiCデバイス	GaNデバイス
<ul style="list-style-type: none">• 研究から開発・実用化フェーズへ展開• 当社独自のデバイス構造とプロセスが強み• 高耐圧、大電力、高周波の特徴をいかしてゆく	
<ul style="list-style-type: none">• 当社の実績豊富な船舶レーダ向けの試作品完成済み	<ul style="list-style-type: none">• 電力分野への応用可能性を共同研究開発着手
<ul style="list-style-type: none">• 2013年頃には20億円程度の売上を狙う	

SiCデバイスの研究開発 電子管から固体化モジュールへ

固体化RFモジュールの特徴

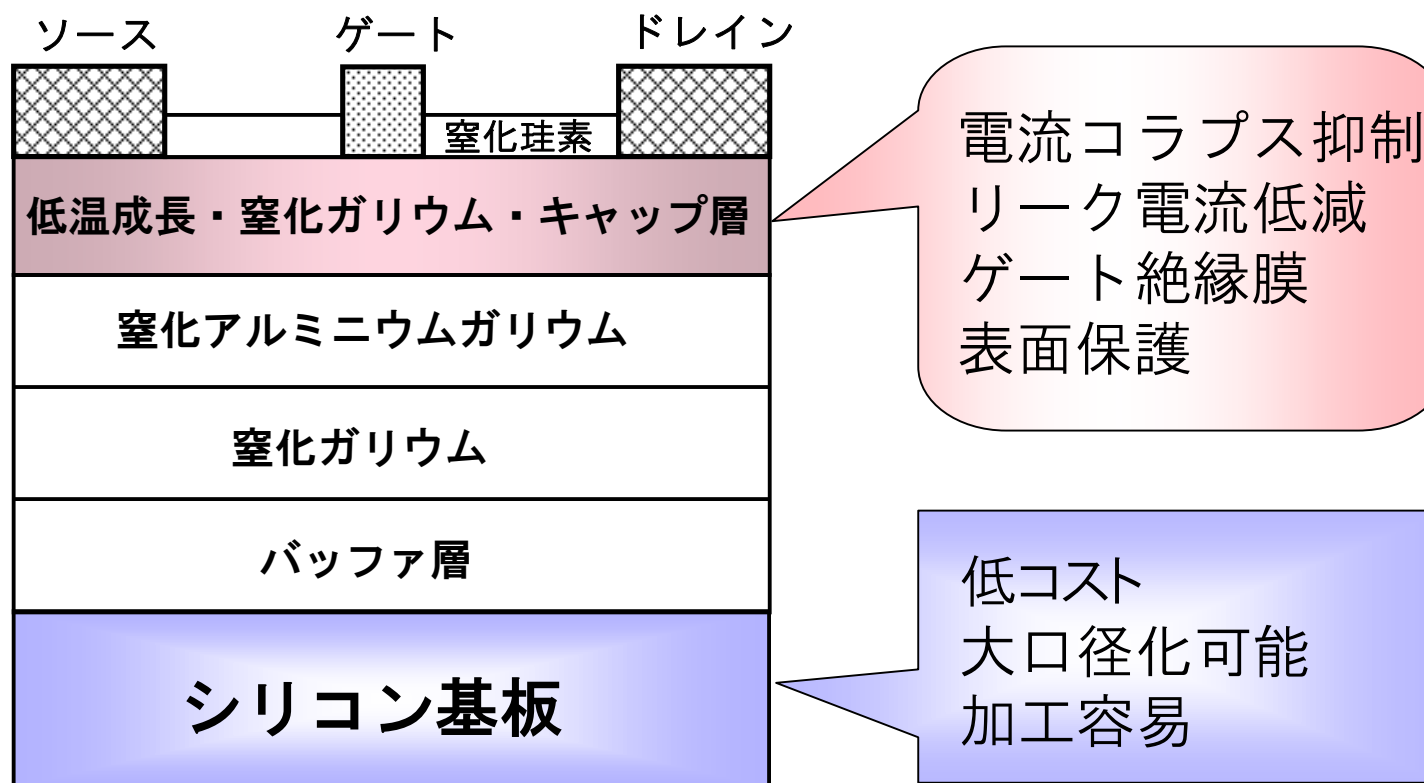
- 小型化
- 長寿命
- 電源の小型化
- パルス信号の容易な変調可

(船舶レーダーへの適用イメージ)



当社独自構造の窒化ガリウムデバイス (低温成長・窒化ガリウム・キャップ層)

＜電力用・高耐圧HFETの構造＞



新デバイスの研究開発



開発案件の販売見込額合計（計画）

(百万円)

16,000

12,000

8,000

4,000

0

- SiC/GaN
- マイクアンプ
- 微弱無線トランシーバIC
- デジタルビデオデコーダ
- デジタル電源制御用DSP

2009年度

2010年度

2011年度

2012年度

2013年度

2008/11/20

27

V. 当社グループの 継続的な取組み

品質経営・環境経営



品質経営

トヨタ自動車(株)広瀬工場様より品質優秀賞を受賞
(2008年4月)

当社オペアンプ、電源用ICが対象で、2007年度納入製品の不良がゼロであったことが評価された。

三菱電機(株)名古屋製作所様より品質優秀賞を受賞
(2008年10月)

不良率を1桁ppmで維持したことと、不具合品の解析期間の短縮が評価された。

環境経営

海外子会社も含めグループ全体へ展開
環境配慮製品の開発

製品設計の初期段階から環境保全に配慮
当社保有の全パッケージをハロゲンフリー化推進
(2009年度 完了予定)

<トヨタ自動車(株)様より>



<三菱電機(株)様より>



企業理念と企業像



新日本無線

私たちの使命

Corporate Mission

社会の期待と顧客の期待の適合における
中心的役割を果たすことによって
健全な社会成長の一助となる

独創的「マイクロエレクトロニクスとマイクロウェーブ」技術を軸とした
最適部品の提供を通してコーポレートミッションを実現する

私たちの未来

Our Vision 2017

新日本無線のチャレンジ —— 2017年の企業像

- アナログIC事業、デジタルIC事業、化合物半導体事業
マイクロ波製品事業それぞれが
世界に通用するブランドとして確立しています
- 躍動感のある若々しい会社とイメージされています

顧客
業界トップクラスの
総合的 OCGS の提供による
ご満足を実現しています

地域社会
地域の皆様とつながる
創造的活動による
ご満足を実現しています

株主
企業の社会的責任の
果たしによる
ご満足を実現しています

取引先
一歩の取引先であることによる
ご満足を実現しています

従業員
成長の喜びにつながる
高いモチベーションによる
ご満足を実現しています

本資料ご使用に当たり



- この資料に記載されている業績予想数値は、現時点で入手可能な情報をもとにした当社における推測・予測に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。実際の業績は、様々な要因により、これらの予想数値とは大きく異なる場合があります。予めご承知の上、ご利用下さいますようお願い申し上げます。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

新日本無線株式会社